

科学技術の潮流

JST 研究開発戦略センター

(271)

環境負荷を削減

社会・経済活動による

環境負荷を低減する

ことは、地球と人類に

とって極めて重要であ

る。地球上の生命シス

テムを支える生物多様

性の喪失を止め、回復

を図る「ネイチャーポ

ジティブ(自然再興)」

の実現を目指して、2

022年に国際的な目

標である「昆明・モン

トリオール生物多様性

枠組」が国連で採択さ

れた。わが国でも、24

年3月に「ネイチャー

ポジティブ経済移行戦

略」が取りまとめら

れ、生物多様性への関

心が高まっている。

このような状況を受

けて、再生可能な生物

由来の資源であるバイ

オマスを使い、気候変

動対策をこれまで目指

す。生物多様性の喪失

を加速しかねない。

つまり、二酸化炭素

(CO₂) 排出量の削減

止めるには、森林伐採

また、他分野の知見

を

生物新機能使う

生物多様性の喪失を

大の抑制効果がある。

また、他分野の知見

を

生物新機能使う

生物多様性の喪失を

大の抑制効果がある。

また、他分野の知見

を

持続可能なバイオ エコノミー実現 先端技術で道開く

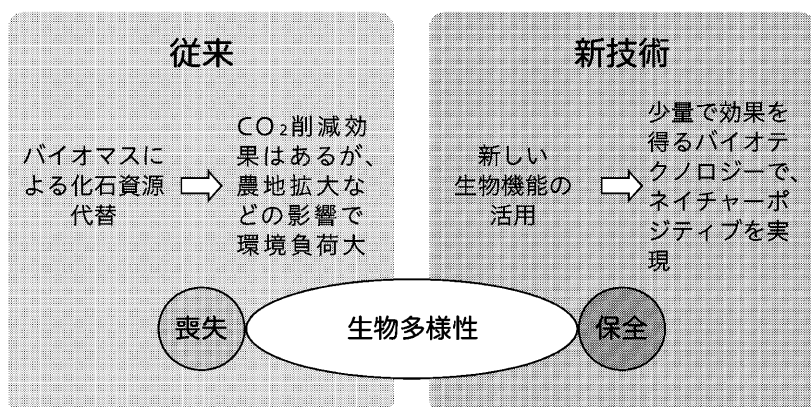


科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センター
フェロー(ライフサイエンス・臨床医学ユニット)

桑原 明日香

東京大学大学院理学系研究科博士後期課程修了。英国、スイ
スでの8年間の基礎植物学研究を経験後、現職。ライフサイエ
ンスおよびバイオテクノロジーに関する研究開発戦略立案を担
当。博士(理学)。

バイオエコノミーの転換



戦略プロポーザル「持続可能なバイオエコノミー実現に貢献する基盤技術開発」を基に筆者作成

を取り入れ、農業の過

程で発生する廃棄物か

ら効率よく資源を生産

イオエコノミーへの道

が開けるはずだ。

生物多様性を尊重し

生かすネイチャーポジ

ティブなバイオテクノ

ロジーを開発するため

には、生態系を構成す

る多様な生物の生物機

能や、生物間相互作用

を担う生物由来の機能

性物質などの発見と活

用が重要である。

わが国でも、今後は

幅広い研究分野と先端

的バイオテクノロジー

とを統合的に発展さ

せ、基礎から応用・開

発へとつながる新たな

研究の枠組みを構築す

ることが必要である。

そして、多様な国際共

同研究を展開し、世界

と連携していくことが

求められる。

(金曜日に掲載)